



第58期 株主通信

2021年10月1日～2022年9月30日

 **富士製薬工業**

証券コード:4554

トップメッセージ



株主の皆さまにおかれましては、日頃より当社事業へのご理解とともに多大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

近年、医療用医薬品業界の事業環境は、薬価改定等の政策や規制の強化を受け厳しさを増しています。一方で、当社が注力する女性医療領域では、本年4月から不妊治療に関する保険適用が拡大されたことなどもあり、女性特有の健康問題に対する社会的関心が向上し、価値提供の機会が広がっています。

私たちは、「2030年ビジョン」として掲げた、世界の女性のwell-beingの向上に貢献し、グローバルマーケットへの進出を果たすとともに、世界一幸せな会社と社会貢献の一体化を実現するため、全力で取り組んでまいります。

代表取締役会長 今井 博文

代表取締役社長 岩井 孝之

中期経営計画達成に向けて ペースを加速。 成長の種を結実させ、 成果につなげます。

2022年9月期の業績

医療用医薬品業界では、昨年4月から薬価の実質毎年改定が行われています。本年4月の改定では、当社製品の薬価引き下げによる影響は6.5%となりました。

このような事業環境の中でも、当社の2022年9月期の業績は、連結売上高35,426百万円で前期比104.2%、営業利益3,777百万円で前期比112.8%となりました。ホルモン製剤が順調に推移したことに加え、タイ子会社OLICのCMO事業がコロナ禍の影響から回復したこと、適切に販売経費を管理し増収・増益を達成いたしました。また、期首の業績予想を上回る結果となったことから、株主の皆さまへの利益還元を促進する目的で、期末配当も当初計画の17円から3円増額し20円(通期合計35円)とすることができました。

※ 業績数値の詳細は「財務ハイライト」をご参照ください。

中期経営計画の進捗状況

現在推進中の中期経営計画(2020年9月期~2024年9月期)においては、「女性医療領域No.1へ」「バイオシミラー事業の確立」「海外事業の強化」「持続的な造影剤事業への進化」を4つの成長シナリオと掲げ、2030年ビジョンが描く「ありたい姿」への中間地点としての成長を目指しています。



女性医療領域では、昨年11月に当社2製品目となる自社開発の新薬である、更年期障害及び卵巣欠落症状に対する卵胞ホルモン剤投与時の子宮内膜増殖症の発症抑制の適応を有する「エフメノ®カプセル」を上市したことに加え、月経困難症および子宮内膜症に伴う疼痛に対する改善効果を予定適応症として開発中の「FSN-013」も2023年9月期中の承認申請に向けて順調に進展しています。また、2022年9月期にはフェリング・ファーマ株式会社との間で子宮頸管熟化剤「プロウペス®」、ならびにバクスター株式会社との間で抗悪性腫瘍剤「ドキシル®」の販売提携を夫々合意し、製品ラインナップを強化しました。加えて、当社既存ホルモン製剤のより一層の安定供給を確保するため、製造能力強化を目的に建築を進めていた第6製剤棟も完工するなど、女性医療領域No.1を目指す取り組みは着実に進捗しています。

海外事業については、OLICにおけるCMO事業の受託拡大を進めつつ同社をフルライン化し、アジアで製造販売を展開していく取り組みを進めています。本年10月にはベルギーのMithra Pharmaceuticals, SAから導入したエストロール/ドロスピレノン配合剤(日本における開発品名FSN-013)を、タイでNextstellis™のブランド名で避妊薬として承認を取得。富士製薬工業グループ初の海外での販売品であり、2023年中の上市を予定しています。

バイオシミラー事業としては、本年10月にアイスランドのAlvotechとの協業による1製品目の承認申請を行

いました。2022年9月期は同社との条件合意によりパイプラインを強化してきたほか、将来のバイオシミラー事業の布石として日本製薬株式会社から4製品を承継。富山工場における高活性マルチシリンジラインの導入が進捗するなど、次期中期経営計画での本格展開に向け着々と準備を進めています。

2023年9月期の見通しと課題

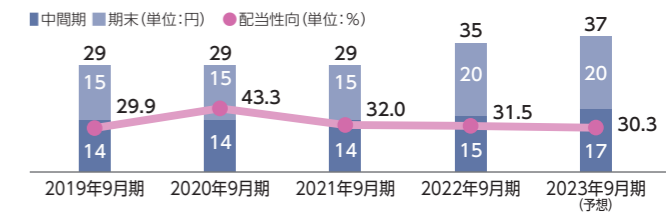
中期経営計画4年目の2023年9月期は、計画最終年度目標として掲げる「売上高500億円」「営業利益50億円」の達成に向けて、業績の拡大ペースを加速し、「売上高430億円」「営業利益40億円」を目指します。

業績拡大を牽引する要素として、「エフメノ®カプセル」や、経口腸管洗浄剤「サルプレップ®」をはじめとする日本製薬からの承継品のさらなる伸長、「プロウペス®」「ドキシル®」の寄与、OLICのアジアにおける製造販売展開の収益化などを見込んでいます。これまでの3年間で仕込んできた成長の種を結実させ、しっかりと成果につなげていく考えです。

株主の皆さまにおかれましては、優れた医薬品を通じて、人々の健やかな生活に貢献していく当社事業の発展にご期待いただき、引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 岩井 孝之

1株当たり配当金/配当性向



Topic 1

タイOLICによる Nextstellis™の承認取得

～富士製薬工業グループ海外事業展開への第一歩～

本年10月に、OLICにおいてタイにおけるNextstellis™(ネクステリス)の承認を「避妊」の適応にて取得しました。タイでは2023年中の販売開始を予定しており、その後ASEANパートナー企業との協業でタイ以外のASEAN諸国でも販売を計画しております。

OLICは、1984年に設立された東南アジア最大級のCMO企業(医薬品の製造・受託企業)で、2012年に当社子会社となりました。これまで、自社での販売製品は持たずに、他社から受託して製造した製品をタイ国およびグローバルの市場に供給してまいりましたが、Nextstellis™を第一歩に、CMO事業と自社ブランド製品を併せ持つハイブリッド企業へ転換します。



タイ・アユタヤのOLIC工場

Nextstellis™は、「海外事業の強化」を現中期経営計画の成長戦略の1つとして掲げる富士製薬工業グループにとって、海外で販売する初の医薬品です。本剤を皮切りに海外での医薬品供給を展開し、世界の女性のwell-beingの向上に貢献してまいります。



2021年末にロゴを刷新しました。ステークホルダーの皆さまと信頼し合い、ともに成長していくことをコンセプトにしています。

Topic 2

設備投資が順調に進捗しました。



富山工場第6製剤棟(中央)

本年6月に富山工場第6製剤棟(高活性固形製剤棟)、7月には第7製剤棟(包装棟)および第2物流倉庫棟の竣工式をそれぞれ実施いたしました。

第6製剤棟では国内でも需要が高まっている経口避妊薬などのホルモン錠剤を製造する予定で、年間製造力は現在の3倍を見込んでおります。現在、医薬品製造に必要なPV(プロセスバリユレーション)を実施しており、本格的な稼働は来春を予定しています。第7製剤棟および第2物流倉庫棟は本年9月よりすでに稼働しております。

Topic 3

環境への取り組み

～太陽光発電オフサイトPPA※の導入～

本年11月に北陸電力グループとの間で太陽光発電オフサイトPPA契約を締結しました。本合意により太陽光発電設備が新規に設置され、20年間にわたり富山工場に供給される電力の一部が太陽光発電による電力に置き換えられます。当社は、2030年までには、富山工場の電力使用量の50%を再生可能エネルギーへ切り替えることを目指しています。

※[Power Purchase Agreement(電力購入契約)]の略で、敷地外の遠隔地(オフサイト)に設置された発電設備から電力を購入すること。

とやま女性活躍企業に 認定されました

本年9月に富山県より、女性が活躍する県内企業として「とやま女性活躍企業」に認定されました。本年より導入された制度で、企業の成長とwell-beingの実現に向けて女性が活躍する富山県内の企業を県が認定しています。当社は「人が一番」「人が大切」という思いのもと、女性活躍を推進してまいります。



Topic 4

個人投資家の皆さま向けの ページを開設しました

当社のごことがより理解しやすくなるwebサイト運営を目指し、「個人投資家の皆さまへ」のページを開設しました。過去に実施した説明会動画などのご案内をしておりますので、ぜひご覧ください。

「個人投資家の皆さまへ」のページは
こちらから



財務ハイライト

POINT

新製品・承継品・既存女性医療領域の貢献に加え、OLICの新規受託案件増により連結売上高は前期比4.2%増。連結営業利益は販管費の抑制などにより前期比12.8%増となりました。

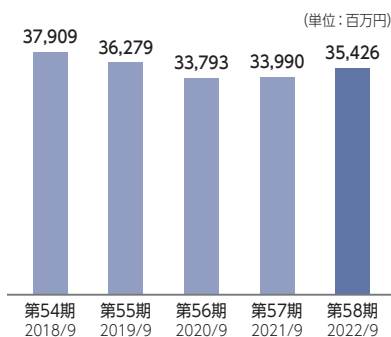
POINT

経口避妊薬などのホルモン錠剤を製造する富山工場第6製剤棟(高活性固形製剤棟)のほか、第7製剤棟(包装棟)および第2物流倉庫棟などへの投資があったことにより設備投資額は71億円となりました。

※ 2022年9月期より会計基準を変更しております。

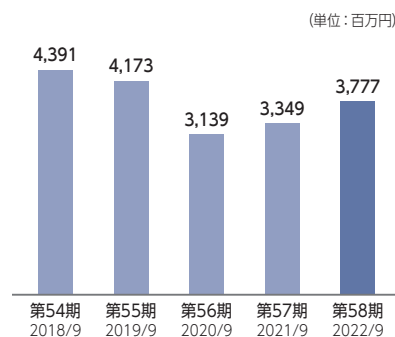
売上高

354億26百万円
(前期比 4.2%増)



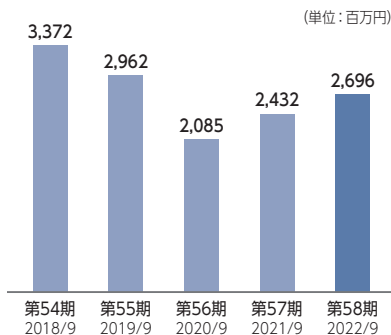
営業利益

37億77百万円
(前期比 12.8%増)



親会社株主に 帰属する 当期純利益

26億96百万円
(前期比 10.9%増)

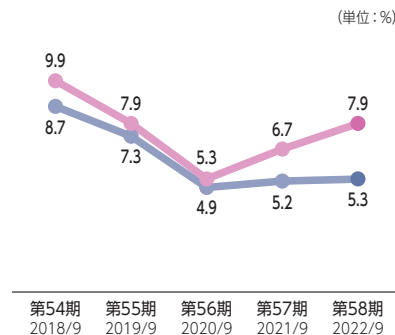


ROA

5.3%
(前期比 0.1ポイント増)

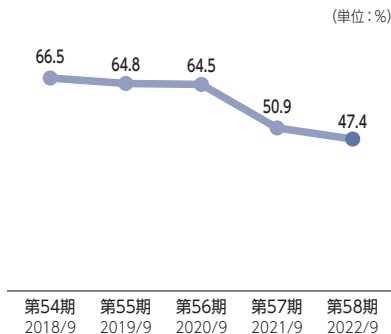
ROE

7.9%
(前期比 1.2ポイント増)



自己資本比率

47.4%
(前期比 3.5ポイント減)

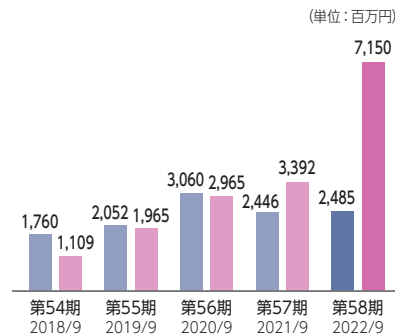


研究開発費

24億85百万円
(前期比 1.6%増)

設備投資額

71億50百万円
(前期比 110.8%増)



会社概要 (2022年9月30日現在)

会社名 富士製薬工業株式会社(Fuji Pharma Co., Ltd.)
所在地 〒102-0075 東京都千代田区三番町5番地7
設立 1965年4月
資本金 37億9,910万円
社員数 連結1,560名(富士製薬工業：817名、OLIC社：743名)
事業所 本社 東京
支店 北海道・東北、関東第一、関東第二、
東海北信越、関西、西日本
工場 富山
研究所 富山 [富山研究開発センター]
海外グループ会社 OLIC (Thailand) Limited
<https://www.olic-thailand.com/>

役員 (2022年12月20日現在)

代表取締役会長 今井 博文	取締役(社外) 三宅 峰三郎
代表取締役社長 岩井 孝之	取締役(社外) 木山 啓子
取締役副社長 上出 豊幸	取締役(社外) 荒木 由季子
取締役副社長 鈴木 聡	常勤監査役 井上 誠一
取締役(社外) 小沢 伊弘	監査役(社外) 三村 藤明
取締役(社外) 平井 敬二	監査役(社外) 相良 美織

株式の状況 (2022年9月30日現在)

発行可能株式総数	56,440,000株
発行済株式総数	24,753,800株
株主数	8,115名

大株主	株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
	有限会社FJP	4,332,200	17.81
	今井博文	4,052,750	16.66
	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,995,700	8.21
	新井親子	1,240,000	5.10
	Lotus Japan Holdings合同会社	1,219,300	5.01
	株式会社日本カストディ銀行(信託口)	634,557	2.61
	BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO)	626,219	2.57
	今井道子	446,000	1.83
	公益財団法人今井精一記念財団	400,000	1.64
	富士製薬工業 従業員持株会	324,980	1.34

(注) 1. 当社は、自己株式433,372株(発行済株式総数の1.75%)を所有しております。また、上記持株比率は自己株式を控除して計算しております。
2. 上記のほか、役員向け株式交付信託の信託財産として、三井住友信託銀行株式会社から25,857株保有しています。
なお、当該株式は連結貸借対照表において自己株式として処理しております。

株主メモ

事業年度

毎年10月1日から翌年9月30日まで

定時株主総会

毎年12月開催

基準日

定時株主総会 毎年9月30日
期末配当金 毎年9月30日
中間配当金 毎年3月31日
そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

公告方法

電子公告(当社ホームページに掲載)
<https://www.fujipharma.jp/ir/announce/>
ただし、事故その他やむを得ない事由がある場合には、日本経済新聞に掲載します。

株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人 事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先 ☎ 0120-782-031
ホームページ
<https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>

上場証券取引所

株式会社東京証券取引所 プライム市場

IRに関するお問い合わせ

本社/経営戦略本部経営企画部経営企画課

〒102-0075 東京都千代田区三番町5番地7 精糖会館6F
TEL:03-3556-3344 FAX:03-3556-4455
<https://www.fujipharma.jp/>



環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用して印刷しています。